大学受験 DO Series

合格点への最短距離

福崎・柴田の英語長文

記号で読みこなす 長文のシンプル＆スマート読解法

Basic Tips for "Paragraph Reading."

伍郎・柴田卓也 共著

Obunsha

大学受験Doシリーズ

福崎・柴田の英語長文

初版発行　2000年9月14日
重版発行　2002年
著　　者　福崎伍郎・柴田卓也
発 行 者　赤尾文夫
編集担当　荒川昌代
営業担当　葛谷友治
印 刷 所　日新印刷株式会社
三興印刷株式会社
製 本 所　有限会社　穴口製本所
発 行 所　株式会社　旺文社
〒162-8680　東京都新宿区矢来町78
●乱丁・落丁本については送料小社負担にてお取り替えいたします。
●お客様相談窓口　Tel.03(3266)6400
●ホームページ http://www.obunsha.co.jp/

© Fukuzaki・Shibata 2000
（許可なしに転載、複製することを禁じます。）

ISBN4-01-034181-5　Printed in Japan

◇旺文社「図書案内」をご希望の方にお送りいたします。下記フリーダイヤルにご連絡ください。
◇旺文社には本書以外にも多数の出版物がございます。お近くの書店で品切れの場合は、下記までご相談ください。

お客様専用フリーダイヤル
0120-024-819
（受付時間は土・日・祝日を除く 9:30～17:30）

PP

大学受験 Do Series

合格点への最短距離

福崎・柴田の英語長文

記号で読みこなす
長文のシンプル＆スマート読解法

Basic Tips for "Paragraph Reading."

江苏工业学院图书馆
藏书章

福崎伍郎・柴田卓也 共著

Obunsha

It's true that reading a long essay is difficult.

But if you can read one sentence, you can also read a long essay.

It's because connections of the contents can be represented by the following signs : = · + · ⟷ · →.

Furthermore, the same connections may appear in a single sentence, in two sentences, and even in paragraphs of a long essay.

In short, if you master how to use these four signs, you will become an expert reader.

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

はじめに

君が今まさに手にしているこの『大学受験Doシリーズ 福崎・柴田の英語長文』は、入試英語長文の読み方を学ぶための1冊なんだけど、僕たちはこの本を「この1冊から始めよう」というコンセプトでつくっている。と言うのも、僕たちは君たちから「長文の読み方がわからない。長文の勉強として何をしたらよいかわからない。長文学習の1冊目としての参考書を2人でつくって欲しい」と言われ続けてきたんだよね。なぜ僕たち2人がそんなことを言われるかというと、一応わけがあるんだ。

実は僕たちは以前にも『解決！イングリッシュ』（以下『解決！』）なる参考書を2人で書いている。この本では、受験英語の攻略の第1歩として、まず「英語」という敵を君たちに倒してもらおうと、文法的なことや構文的なことを主にとりあげたんだ。つまり「この1冊から始めよう」というコンセプトでつくったものだったんだよね。

『解決！』の評判はすこぶる快調で「英語がわかるようになった」という反響はものすごかった。だからこそ僕たちはこの本でこうして2人の念願だった君たちとの再会を果たせたと思っているほどなんだよ。いつしか僕たちは「1冊目のスペシャリスト」つまり「最初の男」として認められたようなんだよね。おかげさまだよ。本当に嬉しいかぎりさ。

ところで、受験英語という大きな敵を倒すためには、「英語」という敵を倒すだけでは十分ではない。かなりの長文を読むことが必要になる以上、「論理」とか「ロジック」とか呼ばれる敵をも倒す必要がでてくる。「筆者」という敵もいると考えた方がよいかもしれない。なぜなら、長文というのは、筆者がイイタイコトを論理的に表現したものだからなんだ。

こうして、この『福崎・柴田の英語長文』ができあがったというわけなんだ。筆者のイイタイコトを正確に読み取れるようになるための1冊。つまり、英語長文の読み方を学ぶために最初の1冊ができたんだよ。

「論理」とか「ロジック」とか、または俗に言う「パラグラフ・リーディング」という言葉は、君たちにはどうやらなにかものすごく難しい感じや響きがするもののようだ。確かに世間では結構とっつきにくい難解な本が多い気もする。そこで僕たちは、長文を読むのにできる限り簡単な方法、単純な方法はないかと考えてみたんだ。

こうして、＝・＋・⟷・→という４つの記号でことがらの関係を整理しながら、長文を読んでいく方法がみつかったんだ。４つの記号が象徴しているように、この『福崎・柴田の英語長文』の中ではなるべく難しいことを言わないように努めたよ。君たちが長文内の論理やロジックといったものをイメージとしてとらえやすいように工夫をしてみた。

本の中の流れもすごく意識してみた。長文の参考書なのに、まずは「１文」から。次に１文増えて「２文」。そして「１パラグラフ」を考えてもらって、最後に「複数パラグラフ（長文）」に挑戦してもらう。無理なく読めるように、少しずつ文の数やことがらの数が増える仕組みになっている。それぞれの章内をも一貫した流れにしてあるよ。「１文を読む時も、長文を読むときも、実は考えるべきことは同じ。同じように読むべし！」というメッセージを込めてみたんだよ。

君たちには、ぜひともこの本の中の流れを体感して欲しい。様々な工夫をしてあるこの『福崎・柴田の英語長文』の流れに軽く乗る気持ちで、むしろ楽しんで読んで欲しい。そうして最後まで読んだ頃には、英文の性質とか長文の性格とかいったものが見えているはず。きっと、それは「論理」や「ロジック」という敵を倒した瞬間だよ。

というわけで、「英語長文はこの『福崎・柴田の英語長文』から」。僕たちが自信をもってお勧めします。流れを体感すべく、楽しんで読んでみて下さい。

福崎伍郎　柴田卓也

“長文”なのに、なぜ１文からはじめるのか？

柴田（本書では以下S）：長文読解の勉強をこれから始めようとするのに、なぜ１文から始めるのですか？呪文のように唱えられている「１文１文が読めれば、長文も読める」っていう怪しげなアレのことですか？

福崎（本書では以下F）：長文をやるのに１文から始めるのは、なんか変だなと思うかもしれませんね。でも、怪しげなアレのことではありません。僕の高校時代も先生たちによく言われたものです。「長文だって１文１文からできているんだ。１文が読めなければ長文だって読めない！１文をやれ！」って。でもこれ、おかしいですよね。勘違いしないで欲しいんですが、僕の言いたいのはこのことではありません。

S：じゃあ、どういうことですか。

F：長文というのはパラグラフ（段落）からできていて、長文読解では「パラグラフをどうみるのか」ということがすごく大事になります。世で言う『パラグラフ・リーディング』のことです。

S：パラグラフをどう見るのかというのは、「パラグラフにあるそれぞれの文の表している**“ことがらとことがらの関係”**は？」とか「パラグラフにおける筆者のイイタイコトは？」とかいうのをつかもうとすることですよね。でも、それなら、なおさらパラグラフから始めるべきなのではないですか。

F：そうなんですが、それぞれの文が表している**“ことがらとことがらの関係”**というのはけっこう複雑で、いきなりパラグラフでやるのは少し難しいと思うんです。ところが、１文というのを見た時に、その１文の中にも、例えばＡとＢという２つのことがらが入っていて、Ａが一般論でＢが具体例だとかいうように、パラグラフの中にある関係が１文の中にも見られるんですよ。

S：えっ？ パラグラフの中にある**“ことがらとことがらの関係”**が１文の中にも見られるんですか。

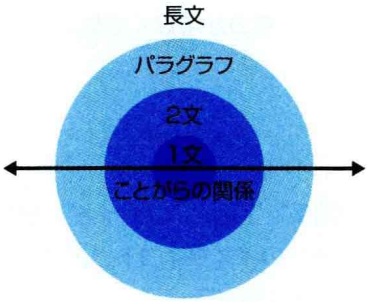
F：そうです。ここで言う**“ことがら”**というのは、書かれている内容であり、その文が表す意味のことです。筆者が２つの文章を用意したとき、その２つには必ず何かしらの関係があります。それは例えば「具体例」とか「要約」の関係のことです。

S：“文と文の関係”と言わないで**“ことがらとことがらの関係”**と言うのは、英文には１文の中にも２つ以上の内容、つまり“ことがら”があることが多いからですね。

F：はい。その通りです。つまり、“ことがらの関係”は１つの文の中にも、パラグラフの中にも、長文にもあって、“ことがらの関係”自体は１文から長文まで共通のものなのです。

S：そんなふうに１文を読んでみたことがないので、驚きました。でも、長文が苦手な人も、１文だったらそんなに拒絶反応はないでしょう。まず、簡単な１文でことがらの関係をどうつかむのかというトレーニングをやって、それから２文、パラグラフというふうに広げてやっていけば、同じやり方で長文の世界までスムーズに攻略できますね。

F：そうです。だから、いくら１文１文を最初から丁寧に読んでいっても、この**“ことがらとことがらの関係”**がつかめなければ、筆者のイイタイコトは見えてきません。逆に言えば、**“ことがらとことがらの関係”**をつかむことが出来て、「こことここは逆のことを言っているな」とわかれば、ちょっとくらい知らない単語があっても長文を読み進み、全体の流れを大きくつかむことができるんだね。それがこの本の狙いなんです。



“ことがらとことがらの関係”がつかめれば1文から長文まで読み取ることができるんだよ。

この本の構成と使い方

長文では、筆者の主張（イイタイコト）を正しく理解することが、なにより大切です。そのためには、文と文の関係、パラグラフとパラグラフの関係を理解し、長文全体の論理の展開をつかむことが必要です。

本書で、この関係（“ことがらとことがらの関係”）をしっかり理解し、長文の読み方―筆者のイイタイコトは何か―をつかむ読み方を身に付けてください。

本書の構成

STEP 1　1文にチャレンジ！

文と文、パラグラフとパラグラフの間にある関係は、1文の中にも存在します。1文では“ことがらとことがらの関係”には何があるのかを、まず日本語で、次に英文で詳しく解説します。しっかり理解しましょう。

STEP 2　2文にチャレンジ！

文と文の関係を表すものには、“目印”となる語句があります。2つの文の中でこの目印の語句がどのような働きをするのか、例文を読んで理解してください。

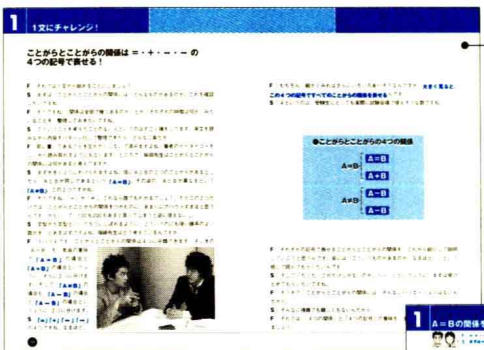
STEP 3　パラグラフにチャレンジ！

パラグラフの中にはいくつかの文が存在します。STEP1・2で理解した“ことがらの関係”“目印”を手がかりに、パラグラフの中の文と文の関係を自分で考えてみましょう。また、パラグラフではいくつかある文の中で、筆者の一番イイタイコト（ウェイトがどこにかかっているか）をつかまなくてはなりません。このウェイトについて図で解説します。

STEP 4　長文にチャレンジ！

STEP 1・2・3で理解した“ことがらの関係”“目印”“ウェイト”を使って、入試の長文に挑戦します。長文では、パラグラフのイイタイコト、パラグラフ同士のつながりをつかみ、長文全体の流れをつかみましょう。

STEP 1　1文にチャレンジ!



●まず、ここを読もう！
本書では、各章のはじめに“この章で理解すること”“なぜ、理解する必要があるのか”などを述べています。

●“ことがらの関係”を理解しよう！
本書では、ことがらの関係を４つの記号で表しています。この４つの関係について、STEP 1で詳しく解説します。読んで理解しよう。

STEP 2　2文にチャレンジ!

●“ことがらの関係”と“関係を表す目印”を覚えよう！
例文と解説を読み、２文にある“ことがらの関係”を理解しよう。ここでは、解説している関係を表す語句を“目印”としてまとめました。ぜひ、覚えよう！そして、Two More Exercises（またはOne More Exercise）を読んでさらに理解を深めよう。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

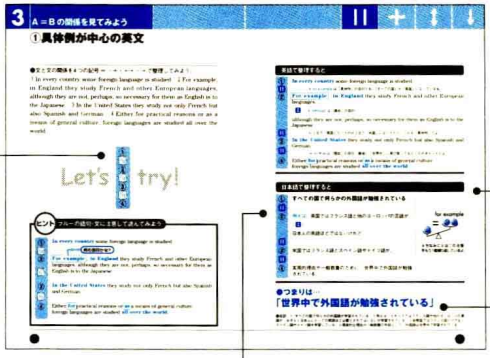
STEP 3 パラグラフにチャレンジ!

●Let's try!
自分で4つの記号をマークしてみよう！

まず、英文を読み自分で文と文の関係を考えをマークしてみます。次に、下段のヒントを参考にして再度考えてみます。はじめに英文だけを見ていたときには気づかなかった文のかたちが、どの語句に注目して読めばいいかわかれば、よく見えてくるよ。自分の理解が不足しているところもわかるね。その後、「英語で整理すると…」で正解を確認してください。

…この記号は、
=・+・⟷・→の4つの記号を合体させたものです。

となぞってマークしてね。



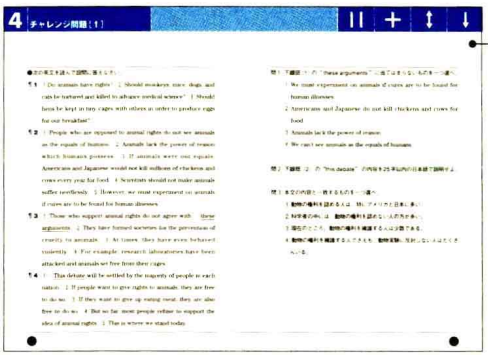
●ウェイトについてはP 75で詳しく解説しています。重い方がイイタイコト。図で文のウェイトがどうかかっているのか、イメージをつかむようにしよう。

●「つまり」はこのパラグラフで一番イイタイコトだよ。

●筆者のイイタイコトをつかもう！

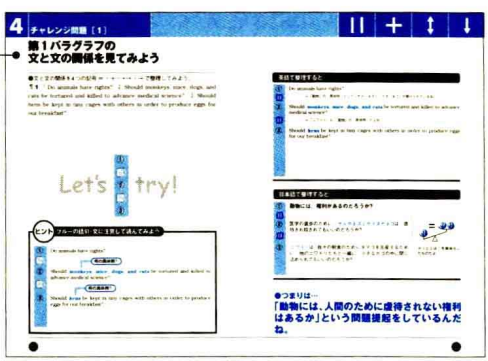
「日本語で整理すると…」では、各文のイイタイコトをまとめてあります。日本語でまとめると、話の展開がよくわかるね。一番筆者がイイタイコトはなにか考えてみよう。そして「ウェイトは…」の図を見て、各文がどんな関係にあるかをつかんでください。

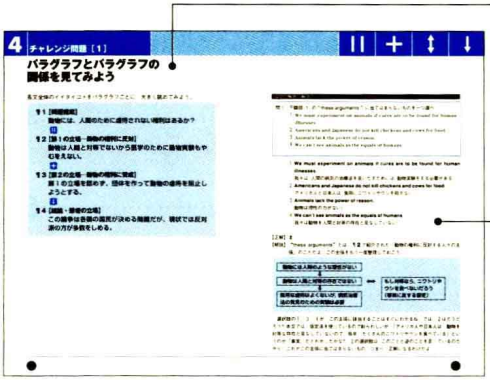
STEP 4 長文にチャレンジ!



●入試の長文を読んでみよう！
長文を読んで設問を考えてみよう。自分でマークしながら読んでみるといいね。

●パラグラフごとに見てみよう！
STEP3と同様の形式で各パラグラフを解説しています。各パラグラフで、筆者がイイタイコトがなにか確認しよう。





●長文全体の流れをつかもう！
パラグラフごとのイイタイコトをつかんだら、長文全体の流れを考えよう。パラグラフの関係も4つの記号で整理すれば、全体の論理の展開がよくわかるよ。

●「設問の解答と解説」を読んで、考え方を確認しておこう。「重要語句」「全文訳」が付いているので、分からなかったところはここで確認しよう。

CONTENTS

はじめに ……4
この本の構成と使い方 ……6

STEP 1 1文にチャレンジ！ ……15

ことがらとことがらの関係は＝・＋・↔・→の4つの記号で表せる！ ……16
ことがらの関係は4つに分類できる！まず日本語で考えてみよう ……18
A＝Bの関係を見てみよう ……20
A＋Bの関係を見てみよう ……22
A↔Bの関係を見てみよう ……24
A→Bの関係を見てみよう ……26
Let's try!〈練習問題〉……28

STEP 2 2文にチャレンジ！ ……35

文と文の関係を判断する手だては“目印”にある！ ……36
A＝Bの関係を見てみよう ……39
①具体例……40　②言い換え……42　③要約……44
A＋Bの関係を見てみよう ……47
①並列……48　②追加……50
A↔Bの関係を見てみよう ……53
①逆接……54　②譲歩……56　③対比……58
A→Bの関係を見てみよう ……61
①原因と結果……62　②理由と判断……64
Let's try!〈練習問題〉……66

STEP 3 パラグラフにチャレンジ！ ……73

パラグラフではイイタイコト、つまりウェイトのかかっている文を見破ろう！ ……74

A＝Bの関係を見てみよう ……77

①具体例が中心の英文……78　②言い換えが中心の英文……80
③要約が中心の英文……82　④たとえが中心の英文……84

A＋Bの関係を見てみよう ……87

①並列・追加が中心の英文……88　②列挙が中心の英文……90

A↔Bの関係を見てみよう ……93

①逆接が中心の英文……94　②譲歩が中心の英文……98
③対比が中心の英文……102

A→Bの関係を見てみよう……107

①原因と結果が中心の英文……108　②理由と判断が中心の英文……110

STEP 4 長文にチャレンジ！ ……113

チャレンジ問題［1］……116

チャレンジ問題［2］……132

チャレンジ問題［3］……154

Column 1 『たとえ構文』……46
Column 2 『：（コロン）や ；（セミコロン）や ―（ダッシュ）って何？』……52
Column 3 『因果関係が含まれている動詞（句）』……60

STEP 1

1文にチャレンジ!

この章では
4つのことがらの関係を
理解しよう

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com